

明石高専 同窓会通信 第5号

〒674-8501 明石市魚住町西岡679-3
明石工業高等専門学校・同窓会
TEL・FAX (078)946-6186

目 次

年頭雑感	合田 俊博	1
学校長挨拶	高 久晴	2
〔母校の近況など〕〔明機会からのお知らせ〕		2
なつかしの恩師より	高端 宏直、土井 崇司	3
JABEE認定への取り組み	澤 孝平	4
こんな日が来るのだろう／来させよう	横田 博	5
〔子午線会からのお知らせ〕		5
もう四半世紀か	柳井 理広	6
〔萌友会からのお知らせ〕〔明石高専建築会からのお知らせ〕〔事務局からのお知らせ〕		6

年頭雑感

副会長・常任理事 土木工学科4回卒 合田 俊博

今年は、息子が成人式を迎えた。おかげで若い頃の自分を思い出すことも多い。私にとっては、就職をし社会人として出発した節目の年であったから、あの頃のことは割合はつきり覚えている。高専を卒業して、もう33年も経ってしまったが、エンジニアとして土木屋として未知の世界に踏出していくことに気負いもあり不安はあまり感じなかったように思う。丁度、その頃は大阪万国博が開催され、活気のある明るい時代であった。就職先が鉄鋼メーカーだったから、土木屋らしからぬ経験も積ませてもらい、それはそれで良かったと思っていた。その後、諸般の事情により会社を辞め、今は生地で司法書士、土地家屋調査士として自営業をするに至っている。しかし、仕事で測量をしたり、図面を書いたりしているので、技術者としての意識は忘れずにいる。その土木工学科が、今では都市システム工学科に衣替えした。自分は土木屋だと思って卒業したものだが、在校生なら今風に横文字でシビル・エンジニアということになるのだろうか。終身雇用が当たり前でなくなってきた当節では、「自分は〇〇の専門家」と拘らない方が、変化の激しい時代を生きるには良いのかもしれないが、我国では、武士なら

武士道、職人ならこの道一筋を究めるという風に、生業を精神修養の道と捉え、道徳が成立してきたということもある。

それにしても、昨今は、氏素姓を誇ることを誇ることで否定されている。また、男らしく女らしくを強調することすら良くないとされるらしい。明解な自己認識も必要と思うのだが、それはあくまで個人的なプライバシーの問題に矮小化されてしまった。その結果、非常識、例外、逸脱に注意しなくとも良い、無理をせず本音でOK、面白ければ良いという感じでスタンダードがなくなりつつある状況だ。物質的には豊かになりながら、刹那主義的雰囲気覆われている感じがする。

不況で、身につく職業の人気の高いというが、一方では理科系はしんどいので若い人から敬遠されがちとも聞く。日本が豊かになったのは低廉で高品質な工業製品を世界に供給してきた製造業のおかげであることを確認し、国是である科学技術立国を实のあるものにする意味からも社会的に技術者が顕彰されるような工夫が必要と思うのだが・・・。

学校長挨拶**学校長 高 久晴**

昨年の12月1日付けで、行田博前校長の後任として就任いたしました。同窓会の皆様方には、今後、いろいろの場でお世話になることと存じますが、どうぞ宜しくお願い申し上げます。就任して2か月余ではありますが、本校の当面する課題及び対応等について簡単にご説明いたします。

戦後の高度成長の波に合わせ社会が必要とする技術者養成のために、5年間一貫の工業系高等教育機関の一つとして本校が設置されてから既に40年以上の歴史を重ねて参りましたが、現時点での最も大きな課題は、本年4月からの独立行政法人化です。国立高専は、規模・教育研究形態がほぼ似通っていることから、全55校は新しく設置される「独立行政法人国立高等専門学校機構」のもとに集中化し、本校も機構が設置する国立明石工業高等専門学校として存続することとなります。国立高専としての大枠に変更はありませんが、独立行政法人化に伴い適用される法律は、国家公務員法、人事院規則等から労働基準法等に変更になると共に、高専の発展に資すると判断される事柄については、各高専の判断で従前以上に積極的に取組み、かつ外部にアピールしていく事が必要となっておりま

す。例えば、専攻科は、より深度の知識、技術を身につけた高度の技術者養成のために平成8年

度に設置されましたが、昨年、「共生システム工学プログラム」がJABEE（日本技術者教育認定機構）の審査を受け、認定取得に努めています。認定取得は、本校が「一定以上の教育を行うとともに所要の成果も挙げうる機関である」と公的に評価されことであり、今後の本校の発展のためには不可欠のものであります。

また、学生の進路選択の拡大・支援の一環として、昨年度の神戸大学工学部に引き続き、本年は神戸大学理学部との間でも単位互換協定が締結される見込みであります。これもより優秀な学生の誘引に大きな影響を持つと考えられます。

更に高専の今後の発展のためには、地元自治体や各企業との連携が一層重要になると考えられます。明石高専が持つ各種の技術シーズと各企業のニーズが結びつき、企業ひいては地域のより大きな発展につながることは、本校の発展にとっても大変望ましいことであります。その他、点検評価やFD活動についても積極的に実施し、その結果のフィードバックに努力しているところであります。

高度の技術力と独創性を備えた技術者の育成のための条件整備に、引き続き努力して参りますので、同窓会の会員各位におかれましても、是非忌憚のないご意見及びご支援を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶と致します。

母校の近況など

- (1) 退 官 平成15年 行田 博(学校長), 岡崎 修三(機械工学科), 中山 正太郎(一般科目), 山本 勲(都市システム工学科)
- (2) 新 任 平成15年 高 久晴(学校長), 本村 士郎(機械工学科), 桑原 義文(都市システム工学科), 長谷川 博史(一般科目), ネバラ ジョン(一般科目), 大和 知史(一般科目)
- (3) その他 平成15年 名誉教授・宮下 純一先生が存の叙勲で勲四等旭日小綬章を受章。

明機会からのお知らせ

機械工学科同窓会(明機会)ホームページのURLは次の通りです。メーリングリストへの登録案内も掲載されています。閲覧下さい。 <http://www.akashi.ac.jp/contents/Mechanic/meikikai/>

なつかしの恩師より

卒業生の皆様へ

名誉教授（都市システム工学科） 高端 宏直

私が明石高専に赴任したのは昭和39年4月でした。上級生が3学年で、国内では東京オリンピックの開催や東海道新幹線が開通した年です。日本経済のポテンシャルも上昇気味の頃でした。昭和49年の第1次石油ショックをはじめ第2次石油ショック、更にはバブルの時代を経て平成のデフレ不況にいきついた。この間、私の高専生活においても種々の出来事を思い出します。学生紛争、各種の体育大会、教育課程の数回にわたる改訂、都市システム工学科への改組、専攻科の設置等々です。確か昭和40年代には400米トラックを備えた第2運動場の実施計画がありましたが、関係者の努力の甲斐なく実現できず未だに残念です。私の高専生活は大変有意義なものでした。多くの友人や知人を得、生涯の宝として大切にしていける所存です。申し遅れましたが、私は平成11年4月に35年間お世話になった本校を退官しました。本年、平成16年4月本校は独立行政法人組織に変わります。更に現教職員が奮起されJABEE資格を得る見込みです。学校運営や高専教育の一つの変曲点となり、これを機会に益々の発展を期待します。

20世紀後半はまさに科学技術の時代でした。環境問題などで紆余曲折があったが技術者としては至福の時代と思います。しかし、ここ何年間は予想だにもなかった不況や社会変革が起こった。先日、テレビである半導体メーカーの欧州市場への失地回復のドキュメンタリードラマが放映されていた。以前なら容易に売れ占有率も高かったようです。最近は中小企業の技術開発を話題にしたものも目にします。NHKのプロジェクトXは大きな反響を呼び諸分野の方々の艱難辛苦を越えた物語は視聴者に感銘を与え、今の沈静化したムードを鼓舞するかの様に聞こえます。以前のような技術一辺倒の時代とは周辺条件も異なりますが、難局に直面した時こそ英知を発揮してください。若い卒業生の皆様には、各自がエキスパートたれ、更にその職場での重鎮たれと、エールを送りたいです。

近頃、少しは明るい兆しが見えてきたように思えます。異論もあるでしょうが、日本人の活力を信じ復活を期待しましょう。学校即ち、教官、在校生と卒業生諸君が一丸となり伝統ある明石高専を築き、21世紀に伝えたいものです。終わりに同窓会会員各位のご健勝とご活躍を祈念してやみません。

皆さん、久しぶりです

名誉教授（建築学科）

土井 崇司

卒業生の皆さん、久しぶりです。18年間お世話になった明石高専建築学科から、震災の年95年の4月に滋賀県立大学人間文化学部に移ってはや9年になろうとしています。私の年も67才になりました。本来は定年をすぎているのですが、新設の大学に最初から赴任した教員としてボーナスをいただき、あと2年、2005年度までここで過ごすことになります。週日は大学のある彦根にいて宿舍に帰り、週末は西宮に帰るという生活が続いています。

県立大学でも国立大学に続いて独立法人化、競争原理の導入を進めるために、自己評価、第三者評価が要請され、研究面はもとより教育面も重視され、地域への貢献、国際貢献などについても各教員は評価のために自分の業績分を明確化するよう要請されています。

このようなこともあって相変わらず忙しく過ごしています。特に年末は多くの仕事が重なり少し無理をしたために、めまいで入院し寝込んだりしました。やはり年相応にがんばりが効かなくなっているのでしょう。週末のテニスをする時間が最近とれなかったりしたのも影響しているのかもしれません。

明石高専には、移って2-3年はまだ教えた学生諸君の卒業ということで、招待していただいた卒業式などに出席していましたが、私の知らない学生諸君ばかりとなって、それにも出席しなくなり疎遠となっております。一昨年でしたか、全学の同窓会が高専で開かれた折には出席致しましたが、卒業生はあまり来ておらず残念でした。皆さん働き盛りで時間の余裕もないのでしょうか。元教員としては諸君とお会いし現在どうしておられるかを知りたいものです。

昨年は7月には建築学科12回生の藤岡万治郎君の結婚式に招待していただき、そこで日高修君、砂山満弘君ともお会いできました。またこの12月には大学での講演会に来られた滋賀県の湖西に在住の16回生の松井公明君がひよこり私の研究室に夕方顔を見せに来てくれたりして、それぞれ話がはずみました。

私の近況のみをお話しましたが、これからは建設業界も厳しくなる一方のようです。大変だとは思いますが、実力を蓄え乗り切っていられるよう切望しております。

JABEE認定への取り組み

専攻科長 澤 孝平

1999年11月に発足した日本技術者教育認定機構 (Japan Accreditation Board for Engineering Education : 略称JABEE) は、日本の高等教育機関における技術者教育を充実させ、国際的に通用する技術者を育成できるよう、教育プログラムを審査し認定するものである。認定作業は、試行期間を経て2002年度から本格化し、高専では宮城高専・仙台電波高専・高知高専が同年度に認定された。

この認定を受けた教育プログラムの修了生は、認定を受けていない教育プログラムの修了生に比べて大きな特権が与えられる。たとえば、2001年度からスタートした新技術士制度によると、JABEE認定を受けた教育プログラムの修了生は1次試験を免除され、修習技術者となり、登録手続きだけで技術士補の資格が与えられる。将来的には企業の採用条件にも差がつけられるともいわれている。

JABEE認定を受けられる教育機関は4年制大学と専攻科を有する高専・短大であり、本校もこの認定を受けるべく準備を進め、2003年度に申請し11月に実地審査を受けた。学生、教職員、卒業・修了生が一丸となって審査に臨んだ結果、2004年1月時点で審査は継続中であるが、良い結果が出るものと思われる。

今回JABEEの認定を申請した本校の教育プログラムは、4つの専門学科の4・5学年と専攻科の2つの専攻を複合したもので、「共生システム工学」と命名された。認定を受けるためには、教育プログラムの学習・教育目標を明確にし、それらに基づく教育と達成度評価を実施し、達成した者のみを修了させるという、ごく当たり前のことを正に行っていることを証明する必要がある。また、外部評価など教育プログラムの改善に向けた制度が機能していることも証明せねばならない。従来の教育ではこのような事象を証明することを怠っており、最も苦手とするところである。JABEE認定を契機に、この当たり前のことを着実に実行できる体制をつくり、真に実力のある技術者を育てよう教育体制に工夫を加えてきた。その具体的項目は以下のようである。

(1)学習・教育目標の設定：本校創設以来掲げている教育目的と各学科の教育目標を参考に、

次の8つの目標を設定した。すなわち、(A)共生に配慮できる豊かな人間性と健康な心身、(B)国際性と指導力、(C)技術者倫理、(D)基礎学力と自主的・継続的学習能力、(E)コミュニケーション能力、(F)柔軟かつ創造的な設計能力、(G)実践的な問題解決能力、(H)多次元的なシステム思考である。

(2)カリキュラムの整備：専攻科の科目を中心に、「技術者倫理」・「創発ゼミナール」・「エンジニアリングプレゼンテーション」・「国語表現法」・「オーラル・イングリッシュ」などの新設、「専攻科特別実習」を全専攻で実施、外国語ⅠとⅡを「カルチャーコミュニケーション演習」と「異文化理解」に変更など、選択必修科目あるいは必修科目を増加した。

(3)シラバスの充実：科目ごとに学習・教育目標を設定し、その目標を達成できたかどうかを評価する基準と評価方法を明確にした。また、年間の授業計画をできるだけ具体的に示し、学生が学習計画を立てやすくし、自主的な学習を促すことにした。

(4)授業点検・目標達成度の点検：授業の内容について、教官・学生双方から点検する体制を整備した。また、学生は学期ごとに目標を設定しその達成度を点検することとした。

(5)外部評価の導入：外部評価委員会、修了生およびその進路先などに定期的に教育システムを点検して頂くことにした。また、技術士の一次試験を参考にした総合試験に合格すること、および大学評価・学位授与機構による学位の審査、TOEIC、研究成果の発表など外部評価により学習・教育目標の達成度を評価することにした。

このように教育環境が着々と整備されると、「共生システム工学」が目指す「人と自然にやさしい技術」を身に付けた国際的な技術者が養成されると期待できる。これを完成させるには、教育の主役である学生のたゆまない努力と真摯な学習態度並びに教職員の常に点検改善を意識した教育態勢が望まれる。明石高専がJABEE認定を受け、国際的にも評価される教育機関として発展するために、今後とも同窓生各位の一層のご支援をお願いしたいものである。

こんな日が来るのだろう／来させよう

機械工学科 7 回卒 横田 博

入学式の日、私は「パイオニア精神」という言葉を学科主任の宮下先生から刷り込まれました。そして、国立高専第一期校としてのパイオニア精神は今も、明石高専の教官、学生の中に脈打ち、卒業生も各種分野で業界、学会での先駆者となるべく活躍されていると思います。

一方、同窓会の活動に関しては、他校の同窓会が手本とするような特徴のある活動は特になく思っています。会員数が4千人を超える大組織で、会員相互の活発なコミュニケーションを図っていくことは大変なことですが、今日の通信革命の流れに乗って会員相互のコミュニケーション手段を変革させるために、パイオニア精神を発揮させる好機が到来しており、数年前には、次のような光景が見られるものと期待しています。

200X年4月：今日は、同窓会総会だ。総会はWeb-TV会議として夜に開催されるのだが、昼間は各種の懇親行事が企画されているので、早朝からのゴルフコンペと、午後からの明石城址での花見会に参加した。先日、同窓会Web掲示板で「技術者の倫理教育を学生に対して行っておくべきか」についての議論を交わしたA氏と花見会場で初顔合わせをした。同じ市内に住んでいることが分かり、今後は直接会って、高専のことについて語り合うことにした。

電子博物館：帰宅後、Web会議の開始前に、同窓会が運営している電子博物館を訪問した。卒業後、三十数年も経ち、身の回りからは在校時の資料と記憶は、ほとんど消えてしまっているが、級友の昔と今の顔写真、Hの丸が毎日掲揚されていた時計塔、実習作品、課題製図、等を閲覧すると十代後半の5年間は懐かしく思い出される。在学時の微分積分の期末試験問題がある。こんな問題がよくぞ解けたものだ。設計製図のトレース墨入れ図面、電算機入力用のパンチカードも懐かしい。入社後の新入社員研修のFORTRAN演習では大卒社員よりもいい成績だった。昔の教材や、元新聞部のB氏から提供された学校行事等のネガフィルムがスキャンデータ化される等、収蔵データは増加し、高専教育史料の宝庫となってきており、教育史研究

者からのアクセスも多いそうだ。

また、アクセス者の間で話題となっているのは、C科、A科のOB有志が編集したプロジェクトA「明石海峡大橋を架けた高専卒」だ。これは、数年前のTV番組：プロジェクトXをのぐ作品で、我らの誇りだ。これに続いて、M科、E科のOB有志が「国産宇宙ステーションを産んだ高専卒」を編集集中であるが、登場人物の大半が大学に進学して社会に出た高専卒のため、高専での勉学の寄与がどれだけのものなのかとの議論があるそうだが、明石高専で培われたパイオニア精神が宇宙工学分野でも不可欠だったことは自明である。

さて、総会の時間だ。Web会議へのアクセス者数が定足数の1000名に達した。会長から前年度報告と決算、予算案の採決要請があり、Web投票を行い可決された。これらの議案は事前にWeb掲示されて以来、質疑応答と意見交換が頻繁に交わされ、本日を迎えたものである。

同窓会会計：財政危機に陥った時期があったが、近年は、Webを活用することによって支出を抑えたことと、還暦を迎えたり、企業で定年に達したりした会員層を対象に「第二の卒業記念醸金」を募集したところ、予想外に多くの人賛同したので、財政危機から脱出できたようだ。これも、Webによるコミュニケーション活動を軌道に乗せて同窓生の絆をより太く育てた担当幹事諸兄のパイオニア精神とご努力が高く評価されたのだろう。同窓会活動をさらに盛り上げるために、私も同醸金に賛同したい。

同窓会Web活用トピックス：①同窓会通信は季刊になり、郵送を中止してWeb掲示だ。②ある年度の卒業生たちは、Webのクラスデータ欄に表示される技術士取得者数を各科クラスの間で競っており、毎年、新規取得者が数名ずつ生まれているそうである。③同窓会Web掲示板に東京18:50発の新幹線のぞみ号に乗車予定の登録をすると、当日、早くホームに並んだ人が自由席の座席を確保し、ミニ同窓会（酒宴）が開かれる仕組みになっている。東京から名古屋まで歓談した後、帰京する変なOBもいるそうだ。

子午線会からのお知らせ

電気工学科同窓会「子午線会」のホームページは<<http://www.akashi.ac.jp/contents/Electric/Shigosen/>>です。平成16年3月以降は電気情報工学科の卒業生が合流します。

もう四半世紀か**副会長 建築学科9回卒 柳井 理広**

明石高専を卒業しておつと気がつくとかれこれ四半世紀になっていました。何事も原点が大切と初めて法律を紐解くことにしてみました。

学校教育法第五章の二 高等専門学校 第七十条の二〔目的〕高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。なるほど……。では大学はどうなのでしょう。同法第五章 第五十二条〔目的〕大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。高専は「職業に必要な能力を育成する。」ところで、大学とは「知的、道徳的及び応用的能力を展開させる」ところのようです。

どうも、必要な能力は育成するけれど知的・道徳的・応用的な展開はその後にかまされていたようですね。いいかえれば、高専の卒業生は多くの可能性（展開性）をもった能力を育成されて社会に送り出されていたようです。いやはや、大いに反省の余地のあるところです。

しかし、現在多くの卒業生の皆さんが各分野でその能力を展開され中心的な役割を担うようになってこられているのではないのでしょうか。

社会変革の大きなうねりの中で卒業生のみならず在校生・先生方含めて「明石高専一門」が互いの分野で連携できるようになっていくことがより大きな展開につながり、〔目的〕の達成に近づけるような気がします。不真面目な卒業生ですが、一門の皆様どうぞよろしゅうに。

萌友会からのお知らせ

平成16年5月8日(土)に舞子ピラにて向山寿孝教官の退官記念祝賀会が開催されます。多数のご参加をお願いします。詳細は都市システム工学科事務局 TEL078-946-6183、FAX078-946-6184 まで。

明石高専建築会からのお知らせ

建築学科同窓会（明石高専建築会）では、5月23日11時30分より明石高専にて定例総会を開催します。詳細は、事務局長の西田 まで。

事務局からのお知らせ

(1) **会費の納入について** 会費未納分がある方は、名簿郵送時に同封の振り込み用紙を利用してご納入下さい。

(2) **住所変更等の連絡について** 住所などの変更がございましたら、お手数ですがハガキ、FAX、あるいはE-mailにて下記の同窓会の事務局の方へご連絡下さい。

(3) **原稿募集** 同窓会通信の原稿を募集しています。同期で同窓会を開催した。同窓会への注文。近況報告等。なんでも結構です。下記、事務局宛にお願いします。

同窓会事務局の電話、FAXを設置しています。不急の連絡は以下の窓口へお願いします。
なお、留守番電話とFAXの処理は1週間毎に行いますので、緊急の連絡は在校の幹事までお願いいたします。

[同窓会事務局]

〒674-8501 明石市魚住町西岡 679-3

TEL・FAX 078-946-6186

[在校幹事]

友久誠司（土木4回）

八木雅夫（建築8回）

國峰寛司（機械16回）

江口忠臣（機械20回）

藤原誠之（機械25回）